

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	503T	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：505C SE

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 5 インチ

研磨剤

番

比較対照ボール：503C

フレアーの幅 インチ

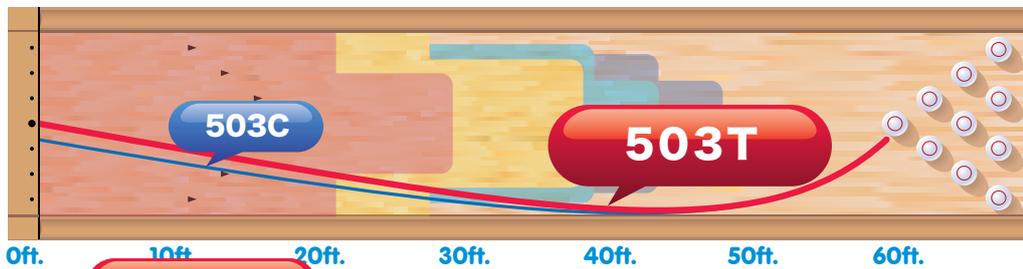
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

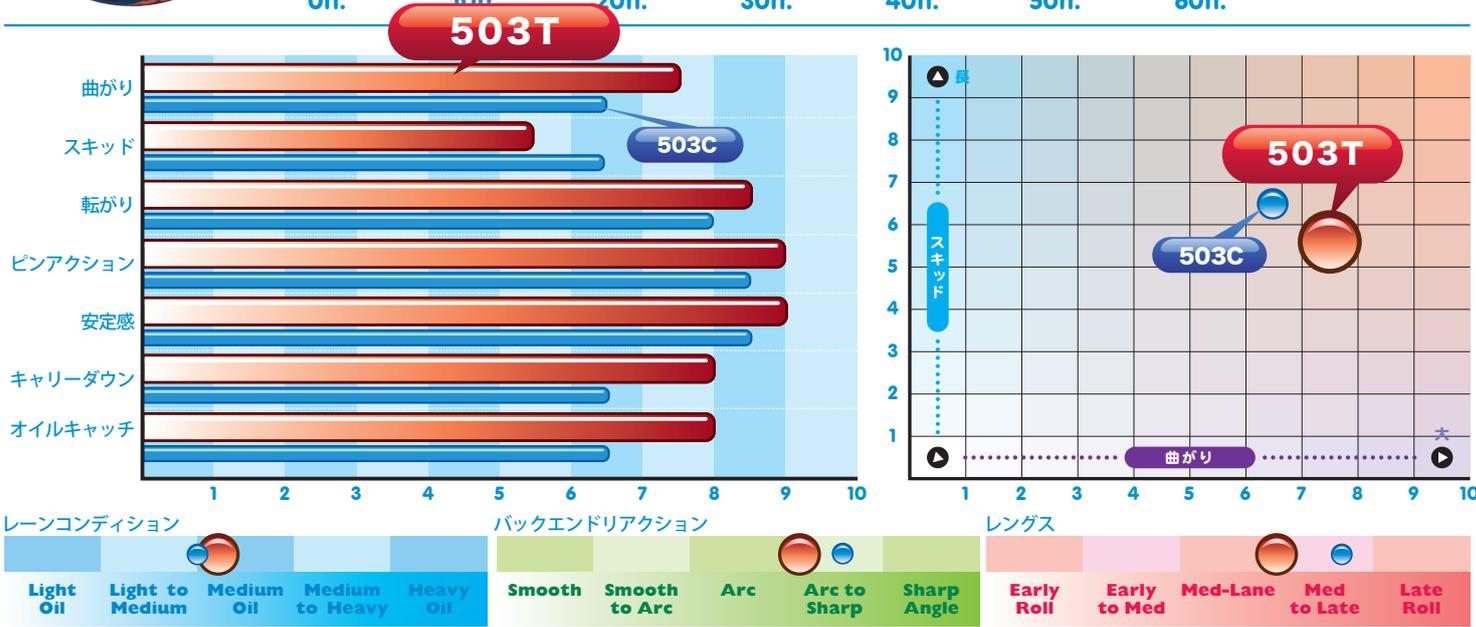
PAPからピンとの距離 4 インチ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

トラック社はミッドパフォーマンスカテゴリーで”T”(Traction)のボールを作りリリースしたいと考えていました。達成するためにはコアとカバーストックとのマッチングが重要です。研究を行った結果、RG数値が中間でフレアポテンシャルが高い現存のPACMANコアと新しいカバーストック GEN MT(モデレート・トラクション)を組み合わせる事で丁度いい回転を保つことができ、レイアウトと表面の加工を変える事で幅広いリアクションを出すことができます。

今回新しく採用されたGEN MT(モデレート・トラクション)カバーストックは716Tで使用しているGEN XT(エクストラ・トラクション)の変形版です。Traction添加物を減らすことによりコンディションの対応幅を増やすことができました。ボールの表面仕上げはパフォーマンスを決める最後の重要な工程です。U.S発売では800番Abranetを使用した後1000,2000と仕上げ、オイリーなコンディション領域に収めていますが、日本発売では独自の800ファクトリーフィニッシュポリッシュ仕上げを採用し、メディアムなレーンで絶妙なスキッドとキャッチで扱いやすい曲りを実現させました。

私はU.S仕様と日本仕様双方を投球しましたが、各々良い部分が随所に見られ、どちらの加工を選択するか甲乙つけがたい判断でした。U.S仕様はミッドエリアでの安定感がずば抜けて良く、”5”の領域をはるかに上回る性能と感じました。日本仕様ではやや光沢を得た分スキッドが軽くなり、メディアム全般での対応幅が広くなりました。私ならばこのボールを各々の表面加工で2つ持ち、それぞれの特性を活かせるコンディションで使用するでしょう。今まで”T”という領域にあまり良いイメージを持っていない方にもこの503Tは必ず気に入って頂けるほどメディアムコンディションで万能に使用していただけます。

特記事項

半光沢された加工は日本のコンディションで絶妙なスキッドと安定したキャッチを生み出します。表面をU.S加工にしたり、先月発売された505C SEなどと併用すればもっと対応幅は広がります。